

## 三重県健康づくり推進条例

～健康づくりの法的根拠はなぜできたのか～

三重県健康福祉部健康づくりチームマネージャー 城 克 文

三重県では、平成13年3月に、健康づくりの総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」を公表し、この3月には、その年次報告である平成14年度版を公表するなど、継続的な健康づくりの取り組みのための基盤整備を進めています。そして、その一環として、まだほとんど知られていませんが、この4月1日から「三重県健康づくり推進条例」を施行しています。

### 1. 三重県の健康づくり推進の考え方

「健康日本21」の公表から2年が過ぎ、わが国の疾病対策が感染症から生活習慣病に変化してきた経緯や、その具体的手法として個人の行動変容が必要であることなどは、皆さんもすでに認識しておられると思います。

でも、なぜ健康づくりを行政が推進するのでしょうか。

「自分の健康は自分で守る」といわれます。疾病が外からくる感染症予防のイメージです。「自分でつくる」ともいいます。運動や食生活改善など身体健康づくりに努力するイメージです。いずれも、「自分の健康のため自分が努力する」ようです。だとすると、努力してまで健康にならなくてもよい人は、健康づくりをしなくてもよいのでしょうか。実際、「自分の人生なんだから、酒飲んでタバコ吸って好きなものを食べて暮らしたら、早死にしても悔いはない。ほっといてくれ」とおっしゃる方もいます。

また、「健康づくりで寝たきり予防」ともいいます。これだと、健康づくりは寝たきりの人や、障害を持つ人には無縁であるかのように聞こえます。健康づくりとはいったい何なのでしょう。

先ほどの「なぜ行政が健康づくりを推進するか」という問いには、さまざまな答えがあると思います。医療費の問題かもしれません。一人ひとりの

健康を守ることが、行政の使命だからかもしれません。でも、それでは「ほっといてくれ」という人への答えにはなっていないような気がします。また、身体が不自由でも、状態に応じた健康づくりがあるようにも思います。

これらについて、三重県では、次のように考えています。

「健康とは、身体やこころのみの問題ではなく、自分の人生を充実して過ごせる状態のことではないか。そのための資源として、良好な身体や良好な精神状態や、さらには、良好な社会的関係などがあった方が（ないよりは）よいということではないか。そして、身体が多少不自由でも、心躍る充実した毎日を過ごしている人がたくさんいれば、社会そのものが活力を持った良い社会になるのではないか。三重県ではそういう社会を実現したい。したがって、県の役割として健康づくりを推進することとしたい」

だから、「ほっといてくれ」という人もほっとくわけにはいかないし、三重県庁だけで取り組む問題でもないのです。社会全体が元気になるためですから、社会全体の連携・協力がほしい。健康づくりを推進しているのは県だけでなく、労働局や社会保険事務局などの国の機関、市町村保健センター、学校や幼稚園や保育園、スーパーや電力やバスやマスコミなどの民間企業、医療機関や健保組合、料理サークルやウォーキンググループ、これらみんながそれぞれに健康づくりを推進し得る立場ですから、みんなが同じ目標掲げて連携・協力できれば、と考えています（三重県では、そうした連携・協力について、「協働」という字を当てています。）

なお、先ほどの「心躍る充実した毎日を過ごしている状態」は、もしかしたらWHO（世界保健機関）が新しい健康の定義として検討していた